

北海道アドベンチャーtravelガイド 山岳（冬山）の認定基準について

1 第1回AT部会で事務局より提案した内容

ガイド従事日数の必要従事日数

《現行》

北海道アドベンチャーtravelガイド認定等制度要綱による必要従事日数

山岳(夏山・冬山)分野の必要従事日数：2年間で200日

サイドカントリー、バックカントリー分野の必要従事日数：2年間で120日

※申請例

山岳(冬山)分野、バックカントリー分野両分野の認定申請があり、山岳(夏山・冬山)通算で200日/2年間、バックカントリー分野120日/2年間の従事日数との申請内容により、従事日数を満たしていると認定。

《事務局案》

山岳(冬山)分野及びサイドカントリー分野、バックカントリー分野の必要従事日数を通算120日/2年間で必要従事日数を満たすこととする。

2 第1回AT部会で委員の皆様から出された意見

(荒井委員)

日数が長すぎるのは短くした方がいい。

(鈴木委員)

200日を120日にするのはいいです。

(鈴木委員)

山岳（冬山）、サイドカントリーだけ120日やってる人がバックカントリーに申請できるのか。バックカントリーはやったことはない人が申請できてしまう。

バックカントリー分野も合算してOKと言っていいのか、それを詳しい人に聞いたほうがいいと思う。

(矢ヶ崎部会長)

通算120日のうち、バックカントリーもあるしサイドカントリーもあるしというその按配。皆さんに共通しているのは、200日は長いでしょう、少し削りましょうという時の合算の仕方については実態を踏まえて検証し120日にしましょうということ。

3 関係者へのヒアリング

①北海道山岳ガイド協会 役員A氏

保有資格：山岳ガイドステージⅠ・スキーガイドステージⅡ

ヒアリング日時：10月31日（火）15:00～15:40（Zoom）

- ・近年、冬の時期が短くなり、ガイドできる日数が少なくなっていると感じている。
- ・1～2月が活動のメインだが、年末からG.W.まで（4～4.5ヶ月）でおよそ120～135日間ある中で、100日をクリアするのは困難な印象。
- ・週3～4日稼働でも年72日間が限度。山岳(冬山)を2年間で120日とするのは妥当。
- ・自身の冬山での活動は70日程度。45～50日がバックカントリーで、残りがスノーシューやアイゼンを使った登山。アイスクライミングも行う。
- ・山岳（冬山）におけるスノーシューなどでの登山と、スキーガイドでは、登坂ラインや下りラインのルートの取り方、ガイドの立ち回り方が全く違う。山岳(冬山)だけの経験値でサイドカントリー・バックカントリーの認定をするのはNG。
- ・ただし、冬山というフィールドの経験値は同じなので、半分くらいは経験値として担保できると考えられるので、山岳(冬山)の経験日数を60日位までサイドカントリーやバックカントリーの経験日数として付与するのは、問題ない。

②北海道山岳ガイド協会 役員B氏

保有資格：山岳ガイドステージⅠ・スキーガイドステージⅡ

ヒアリング日時：11月2日（木）14:30～16:45（赤井川村）

- ・山岳(冬山)の基準(200日)について、自身は1年で120日以上稼働しているが、**200日は多すぎる印象**。1シーズンで50日～60日、**2年間で100日が妥当**。
- ・山岳(冬山)に、サイドカントリー、バックカントリーの日数を合算することについて、それぞれについて**2年間で60日～80日（全体の3分の2）**ガイドしていれば担保できる印象。
- ・雪崩対策が一番重要な点であり、サイドカントリー、バックカントリーでのガイドができるのであれば、山岳（冬山）については、問題なし。

③北海道山岳ガイド協会 役員C氏

保有資格：登山ガイドステージⅢ・スキーガイドステージⅡ、

北海道アウトドアガイド(夏山)(冬山)

ヒアリング日時：11月10日（金）10:10～10:30（Zoom）

- ・冬山に入るのは12月20日頃からG.W.明けの次の週まで（4.5～5ヶ月）。仮に2日に1日のペースだと1シーズンで75日位。自分はバックカントリー専門で、スノーシューでの冬山登山はしない。
- ・**基準は120日でもよいと思う**が、自分はガイド専業でリピーターもいるので基準はクリアできるが、若手のガイドはまだお客さんも十分についておらず、夜に飲食店でアルバイトをしながらの方もいるので基準ぎりぎりの方もいる。**若手ガイドにも登録してもらおうのであれば100日に下げてもよいかと思う**。
- ・**山岳(冬山)だけの経験値だけでサイドカントリー・バックカントリーのガイド認定をするのはNG**。
- ・サイドカントリー、バックカントリーは山岳（冬山）に比べて難易度が高いので、**基準日数の3分の2以上**で冬山に合算してもよいのではないかと。サイドカントリー・バックカントリーを申請するような方は、ほぼ専門でやっている方なので、支障はないはず。

現行	山岳(冬山) } 200日	サイドカントリー } 120日	バックカントリー } 120日	日数の合算可 合算割合の決めは無し
A氏	山岳(冬山) } 120日	サイドカントリー } 60日(1/2)	バックカントリー } 60日(1/2)	日数の合算可 サイド、バックカントリー
B氏	山岳(冬山) } 100日	サイドカントリー } 60～80日(2/3)	バックカントリー } 60～80日(2/3)	日数の合算可 サイド、バックカントリー
C氏	山岳(冬山) } 100日(若手考慮)	サイドカントリー } 70日(2/3以上)	バックカントリー } 70日(2/3以上)	日数の合算可 サイド、バックカントリー

4 事務局案

- ・山岳(冬山)分野及びサイドカントリー分野、バックカントリー分野の必要従事日数は、若手のガイドにも配慮し**2年間通算で100日**とする。
- ・山岳(冬山)分野とサイドカントリー、バックカントリーを併せて申請する場合は、**通算で100日のうち、70日以上をサイドカントリー、バックカントリーの必要従事日数**とする。